

テメキュラ市訪問記 〔1〕

今年の夏、大山町の姉妹都市、米国テメキュラ市を中学生が訪問しました。交流事業の感想文の一部を数回に分けて紹介します。



シビックセンターで

アメリカ研修を終えて

大山中学校長 宮邊 満

7月28日から8月8日までの12日間、中山中、名和中、大山中の生徒5人と中学生交流事業で、米国カリフォルニア州テメキュラ市へ研修に出かけてきました。今年は、大山町内の各中学校から参加者が集まって、2年目の訪問となりました。

3校の生徒は、5月20日の

夜から大山町の中学校代表として、英語で「大山町の紹介」「学校紹介」のプレゼンテーション、英語での「自己紹介」、「ソーラン節」の披露演技、英語での「折り紙の紹介」、ピアノの披露演奏などの事前学習を何回も積み重ねました。第1回目の事前研修では、おとなしく消極的だった生徒たちが事前研修を重ねることによって連帯感が生まれ、たくましくなり、またアメリカでのホームステイを通して、自分を表現することに自信をもってきたように感じました。

事前研修に際しては、町や教育委員会、3校の中学校英語科の教員、大山中のALT（河瀬珠子先生）など多くの関係者のお世話になりました。事前研修をしつかり積み重ねたお蔭で、シビックセンターやシニアセンターでの英語でのプレゼンテーションや披露演技などが大成功し、皆さんに大変喜ばれました。

アメリカで 体験したこと

名和中2年 入江 典子

私は、今回の交流をとて楽しんでしていました。けれども、英語は得意ではないし、積極的な方でもない

ので、アメリカで本当にホームステイが無事できるのかとても不安でした。実際に、ホストファミリーと対面したときは「ここで、まず積極的にならなくては」と思い、がんばって私から声をかけることにしました。

しかし、あまりにも緊張してしまつて、声が裏返つたり、右手と右足が一緒に出てしまつたりといういろいろ大変でした。けれども、ドイツセンバガー家の人たちは、そんな私をとてとても温かく、優しく迎えてくれました。私は、自分から積極的になれたので、それがともうれしかったのです。また楽しい気持ちというのは、言葉を使わなくてもお互いにわかり合えました。「笑顔は世界共通語だ」とテレビで聞いたとおりでと思いました。



▲ホストファミリーとともに

1週間が、あつという間に過ぎてお別れのときがやってきました。初めは、右手と右足が一緒に出るくらい緊張していたのに、今は、一緒に何がができるまでになりました。とても素敵な時間を過ごすことができました。みんなと別れるのは、とてもさみしかったです。初めの対面のとときは、握手だけだったのに、最後は自然とハグになっていました。

私は、こんなにこの交流が楽しいことだと思っていませんでした。今回、私を受け入れてくださったドイツセンバガー家、行くまでにお世話になったたくさんの方々、どうもありがとうございます。

▶旧中山町10周年記念寄贈モノユメントを囲んで(ダックポンド公園)

